

令和8年2月20日

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

民間競争入札実施事業

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構／令和4度下期～令和9年度上期 プロジェクト情報
管理システムを使用した文書管理支援業務(案)

I. 事業の概要

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」という。）の文書管理運用支援業務（以下「本業務」という。）については、「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律（平成18年法律第51号）」に基づき公共サービス改革基本方針に従って民間競争入札を行い、令和4年10月から以下の内容にて業務を実施している。

1. 委託事業内容

本事業は、JAXA職員が作成または取得した、プロジェクトに関する技術文書等の紙文書または電子ファイルを各プロジェクトで蓄積・管理し、これらの文書を有効に活用する環境を整備することによりプロジェクト等業務の効率化・確実化に資するために以下の業務を行う。

- ・プロジェクト情報管理システム（以下、「PIMS」という）（※）を使った文書の登録、維持管理、廃棄

※利用しているプロジェクトごとにシステムを構築し、技術文書管理を行うシステム

2. 業務委託期間

令和4年10月1日から令和9年9月30日（5年間）

3. 受託事業者

日本レコードマネジメント株式会社

4. 実施状況評価期間

令和4年10月1日から令和7年9月30日（3年間）

5. 受託事業者決定の経緯

機構の「令和4年度下期～令和9年度上期 プロジェクト情報管理システムを使用した文書管理支援業務」における民間競争入札実施要項（令和4年4月、以下「実施要項」という。）に基づき入札参加希望者業者2者から提出された履行証明書について審査をした結果、満たしていた。なお、仕様書等受領者数及び入札説明会参

加者数は2者であった。

入札価格については、令和4年7月6日に開札したところ、より安価かつ予定価格の範囲内での応札であった日本レコードマネジメント株式会社を落札者とした。

II. 確保すべき質の達成状況及び評価

民間競争入札実施要項2.7において定めた民間事業者が確保すべき質の達成状況に対する当機構の評価は、以下のとおり。

評価事項	測定指針	評価
(1) 業務に関する 要求 全般	調達仕様書 6 項に定めた作業毎の内容及び実施計画書(調達仕様書 8.1 項)に沿って本業務を適切に行うこと。	実施計画書及び工程表に沿って業務が適切に実施されたことを以下により確認した。 ・毎月提出される業務報告書、日々の報告及び四半期に一度開催される報告会により確認した。 ・定常業務で行われている文書の登録・維持管理等は、随時適切に行われている。さらに業務を見直し改善提案を行い、機構担当者と協議の上、業務を行っていたことも確認できている。 以上のとおり、確保されるべき質を達成している。
(2) エラー率の低減	6.1.2 項の作業において、エラー率を 0.5%以下にすること。	PIMS から JASMINE へのデータ伝送の際、両システムの書誌項目を同期させるため、伝送データに一部加工を施している。このデータ加工は一部手作業かつ複雑な手順でありエラー発生の要因であった。 令和 4 年下期のエラー率は 2.70%、データ加工手順をマクロで機械化、手作業部分も手順を見直し、令和 5 年度にはエラー率を 0.20%までに改善した（実施要項の要求 0.5%以下を達成）。 令和 6 年度は更に手順の精査を進め、結果エラーが発生しない手順を確立し、現在に至るまでエラー率 0%を維持している。
3) 満足度調査	調達仕様書 10 項 (3) 満足度調査を行い、上位 2 段階で 6 割以上を達成	<アンケート結果> 本アンケートは forms を使って行っており、表 2 <アンケート結果>のとおり回収

	<p>すること。また、アンケートの回収率は、PIMS利用部署職員のうち、8割以上とする。ただし、利用していない職員及び利用したことがないサービスは対象外とする。</p>	<p>率は81.2%と8割以上となり、満足とほぼ満足で5問すべて高いポイントを得ており、平均でも99.6%となったことで、想定以上の満足度を得ていることがわかった。</p>
--	--	--

表1 <アンケート結果>

<満足度調査> (対象職員：181名 回答：147名 回答率：81.2%)

① 速やかにPIMSに情報を登録しましたか。

満足 72%
 ほぼ満足 28%
 やや不満足 0%
 不満足 0%

② 登録内容に誤りはありませんでしたか。

満足 81%
 ほぼ満足 19%
 やや不満足 0%
 不満足 0%

③ PIMSの操作に関する研修はわかりやすかったですか。

満足 48%
 ほぼ満足 51%
 やや不満足 1%
 不満足 0%

④ 操作等がわからなかった時の対応は速やかに行われましたか。

満足 69%
 ほぼ満足 31%
 やや不満足 0%
 不満足 0%

⑤ その説明はわかりやすかったですか。

満足 71%
 ほぼ満足 28%
 やや不満足 1%
 不満足 0%

Ⅲ. 民間事業者からの改善提案

令和4年10月以降、PIMS運用に際して、より良い運用やサービスに関する提案

を行い、運用が円滑に行われ業務の質向上につながった。具体的には、以下のとおりとなる。

- 1) 民間事業者からの提案により、PIMS はプロジェクトの要望に応じて画面構成等カスタマイズ可能な柔軟性を持つ一方、プロジェクト毎にシステムが独立して構築されるため、プロジェクトを跨いだ利用方法の横展開が難しく、利用にバラつきが生じる。例えばあるプロジェクトで大変重宝されている使い方や有効活用の事例、見やすい画面構成等の横展開の機会は少なく、プロジェクト運用開始時点から利用の仕方が大きく変化しない。

PIMS 管理者である民間事業者は全てのプロジェクトの利用状況を俯瞰できるため、PIMS のより良い活用を標準的利用として改めて普及し、その上でプロジェクトの状況に応じた最適化を図ることとし、全プロジェクト（全 24 部署）を対象にヒアリングを提案・実施した。

ヒアリングの結果、画面デザインの刷新と情報分類の整理、アカウントの Forms 申請をはじめとするユーザ管理の効率化等、プロジェクトの意向に応じて反映し、利便性向上に寄与した。

- 2) 民間事業者からの提案により、プロジェクト発足初期段階から PIMS の利用を具体的に検討できるよう PIMS テスト環境を構築し、実際の利用をシミュレーションできるようにした。また、(1)に示した PIMS の標準的利用方法を案内し、円滑な導入と速やかな浸透に努めた。今期、衛星プロジェクト以外の分野（宇宙環境利用、研究開発）にも導入に成功し（利用開始：5 部署、検討中：2 部署）、PIMS の利用拡大に貢献した。

IV. 実施経費及び競争性確保の状況及び評価

1. 実施経費

○従来（平成 28 年 10 月 1 日から平成 29 年 5 月 31 日まで 8 ヶ月）

- ・ 契 約 額：148,500,000 円（税抜）

うち、プロジェクト情報管理システムを使用した文書管理支援業務に該当する金額 14,650,000 円（税抜き）となる。

- ・ 単年度当たり：21,975,000 円（税抜）*2

*2 契約額 8 ヶ月より算出（14,650,000 円 ÷ 8 ヶ月 × 12 ヶ月）

○今回

（令和 4 年 10 月 1 日から令和 9 年 9 月 30 日まで 5 年）

- ・ 契 約 額：96,000,000 円（税抜）

- ・ 単年度当たり：19,200,000 円（税抜）

- ・ 市場化前の契約が 1 年未満であることから数値による厳密な比較が難しいが、従

来の文書登録件数は単年度当たりに換算すると約4,500件、今回の文書登録件数は4,300件と減少している。一方、PIMSは部署ごとにシステムを構築しており、それぞれにアクセス権等の維持管理やデータ伝送時の調整が必要となる。PIMSを利用している部署が市場化テスト前と比較すると22部署から29部署へ増えている。また、JASMINEへデータを送る際のデータ作成も部署ごとに行うが、対象となっている部署は市場化テスト前と比較すると16部署から28部署へ増えている。さらに、1時間あたりの人工費も税抜きで69円高額となっている。

従来の契約と比較し単年度当たり2,775,000円程度削減したこととなる。文書の登録件数が200件減少しているが、見積額に換算すると約1,200,000円になるため、この額を加味したとしても1,575,000円程度の低減となっている。以上のことから、今回は、2者による入札が実施できたことから、競争による経費低減効果が働いたものと推察される。

2. 競争性確保

公告期間は前回45日であったところ84日間、引継ぎ期間は前期同様2か月半確保し、十分な期間の確保に努めた。JAXAの規程やマニュアル・前契約の報告書等含め契約履行に係る文書一式について、従前はJAXAへ来訪いただき職員同席のもと資料を閲覧いただいたが、上記文書一式の電子ファイルを送り、閲覧申請受付日から閲覧期間終了まで資料を確認することができるようにし、期間も十分に確保した。また、実施体制における運用員の常駐を要求から外し、テレワークでの対応作業を明確にする変更を行った。

V. 総合評価

確認すべき質の達成状況について、Ⅱに記載の通り本事業の実施に当たり確保すべきサービスの質として設定された要求水準は満たしている。また、コロナ以降テレワーク勤務が増えたこと、作成文書だけではなく取得する文書の電子化が進むことで、媒体がないことにより登録が伸び悩むことが課題だったが、各部署の業務の流れを把握し登録すべき文書の発生時期を把握し、職員に対し積極的に登録促進を行ったこと等により安定稼働を達成したことは、大いに評価に値する。

本業務を市場化テストの終了プロセスに照らし合わせると、以下のとおりとなる。

- ① 事業実施期間中に、受託民間事業者が業務改善指示等を受けたり、業務に係る法令違反行為等を行ったりした事実はなかった。
- ② JAXAにおいて、実施状況について外部の有識者等によるチェックを受ける仕組み（評価委員会等）を備えている。
- ③ 入札にあたっては、2者による入札を行うことができた。
- ④ 対象公共サービスの確保されるべき質に係る目標は達成されている。
- ⑤ 市場化テスト前と比較し、大幅な経費削減が認められた。

VI. 今後の事業について

1. 今後の競争性確保のための検討

市場化テスト対象となった前々契約（履行期間：平成29年6月～令和2年9月）での入札においてにおいてご意見をいただき、それを反映する形で二つの契約に分割を行った。さらに、実施要項への意見招請や過去の実施経費提示などの改善を講じた結果、プロジェクト技術文書管理運用支援業務については、前期・今期ともに2者による入札を実施することができた。

2. 今後の事業

以上のとおり本事業については、費用と品質の両面、また競争性の確保の観点において良好な実施結果を得られていることから、「市場化テスト終了プロセス運用に関する指針」（平成 26 年 3 月 19 日官民競争入札等監理委員会決定）Ⅱ.1.(1)に基づき市場化テストを終了し、当機構の責任において実施することとしたい。次期以降の事業実施においては、これまでの官民競争入札等管理委員会において、指摘及び助言等のあった観点を十分に踏まえ、引き続きより多くの応札者が得られるよう検証を重ねながら、一層のサービスの向上及び経費削減を図っていくこととする。

以 上